

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
市場	易開拓から交流へ「馬路村の戦略」馬路村農協常務/東谷 望史 1
特集 (『持続できる農村集落をめざして』
	切山にいらっしゃい !川之江市/真鍋 敏男 2
	「知恵出せ」、「銭出せ」、「力出せ」!! 小 松 町/井上 浩二 4
	過疎・高齢化が進む中での「滑川ふるさと塾」の活動川 内 町/内田 勝尉 6
	「農村であるが故の地域の生きざま」 野 村 町/岡田 和彦 8
	「元気が出る村づくり」を目指して 城 辺 町/山口 正一 10
論談ーまちつ	づくりー
	エコロジーとむらおこし水俣市久木野ふるさとセンター愛林館館長/沢畑 亨 12
残しておきた	たい農村風景
キラリ光るさ	まち
	村営百貨店の出発点は産業振興と地域活性化 京都府大宮町/大木 満和 16
引き算型ます	ちづくりの事始め(一) 内 子 町/岡田 文淑 18
トークナウ	
	「GOOD WILL」との出会い 新居浜市/高橋じゅん 20
	環境に配慮した農業を支援 松 山 市/大崎 秀樹 21
研究員レポ-	– ト
	まず足元から見直そう 三好 誠子 22
	「自分のステージ域」考 森田 浩二 24
MY TOWN	うぉっちんぐ 歩キ目デス&足ラテス
	近代化遺産シリーズ「佐島ウォッチング」 岡崎 直司 26
Information	まちセンからのお知らせ
(編集子 橋岡)	特集 「持続できる 農村集落をめざして」 これからは日本全体が高齢化 これからは日本全体が高齢化 や少子化で人口減少に向かっていかと思います。農村集落では、さらに拍車がかかっていくのではないかと思います。それによって、集落での暮らしを支える農業、集落での暮らしを支える農業、ためによる行政の広域化も、農村集落にとって何らかの影響でできることは自分たちでできることは自分たちでできることは自分たちでやよ」という気持ちが必要だと思います。 「会員という気持ちが必要だと思います。 ないます。 ないます。 ないでしょうか。 おるのではないでしょうか。 で以上に、集落内での人のつなでもまたとは自分たちでやる」という気持ちが必要だと思います。 ないとに、農村で集落を持続するために活動されている方たちでかます。 ないます。

41車がかかっていくのではな ン子化で人口減少に向かって 持続できる クと思います。それによって、 oます。農村集落では、さら これからは日本全体が高齢化 農村集落をめざして」



柳原 田園風景丨 あや子

退散か。秋の実りを祈る。 れじゃカラスも近づけず ほのぼのファミリー。こ しむ時代。この案山子も 大洲市五郎の 今はファッションを楽 だった。

には黄金色に塗り替え、 突っつかれ、気の毒な姿 農家の不用着でカラスに 続いていた。案山子は、 平凡な景色がどこまでも 輝やき、穂は波打ち、秋 夏にはどこも水面となり 昔の田園風景とは、

表紙の言葉

クも十分あった。決めたことは人が何を言っ いうエネルギーを持っていたし、フットワー

達が最近回りで欠乏している気がするのであ

ても折れなかった気がする。そんな頑固な人

と。言うたとおり、やったきにねや。」酒の 史はこう言よったぞ、日本一の柚子にするー

勢いで言ったかも知れないが、若い頃はそう

市場開拓から交流へ 「馬路村の戦略」

馬路村農協常務

望史 東谷

る。



大丸の催事に参加した。その日の催事が終了 促進か、目的や目標を持つ訳でもなく、神戸 ったが、先日、 の話をして飲んだかはさっぱり覚えていなか し近くの居酒屋で先輩課長と酒を飲んだ。何 一十年程前の事であるが、市場開拓か販売 当時の課長がその話を切り出した。「望 村の宴席で杯を交わしている

直送、お客さまお届けである。 れるぐらいの村であるが、今、 地はわずかしか無い。農協の存在すら忘れら 商品は全国に送られている。その多くは産地 当時は流通のしくみが解らないから、 馬路村は、 面積の九六%が森林であり、 馬路村農協の 農

事を始める。この二十年間がそんな取り組み 間にか二五億七千万円になっていた。 の繰り返しであった。そして、売上はいつの が返ってくるから、頭を使い工夫や汗をかく の方でどれだけの方が、町の人たちと人や物 厳しいといわれる農業に於いて、農家や農協 売ることにした。今ではこの方法が正解だっ の交流をはかっているだろうか。厳しい意見 れる。対応が悪いと厳しい意見が返ってくる。 たといえる。お客さまは常に情報を送ってく 直接

きた。そして国道や鉄道もない村であるが 車線になればと思った時もあったが、 から、いつも申し訳なく思っていた。 たが、不便な村でも物が売れることは証明で お客さまが来てくれるのである。道路が狭い 「この道がえい」と村の人に言っている。 物産展の参加から始まった市場開拓であっ 早く一

> ないと言う。そうなると、この道は価値があ りそうである。 道を通って来る人は、馬路村に来た事は忘れ の人は発展した馬路村を訪ねて来るのではな 不便や苦労を承知で来ている。この狭い

っている。 ら、又新しい展開が発見出来そうであると想 れている事が馬路村のゆずの価値とできるな 私たちの作るゆずが不便な道を通って運ば



くん馬路村の商品群 まだまだ開発中!



平家伝説と古い民家が残る 切山地区

見学者が絶えない。 に位置し、 重要文化財に指定されていることもあり、 ている。切山には平家伝説が残されてい の山あいや丘に二十九戸の農家が散在し から約八㎞奥に入った海抜三百~四百m ていたり、民家として真鍋家住宅が国の 川之江市切山地区は、 それにかかわる沢山の遺跡が現存し 香川県との県境にある。市内 愛媛県の最東部

んである。 製紙会社や関連企業に通勤している。ま た。二十名余りの若者がいるが、市内の 全通したことにより道路事情がよくなっ 平成八年十一月に県道大野原川之江線が た四戸の畜産農家を中心に、 この全通した県道をうまく活用し、切 ひと昔前までは交通が不便だったが、 自給的な農業経営がなされている。 住民の高齢化が進んではいる 畜産がさか



切山地区自治会会長

川之江市

鍋

敏

男

されている。 然を生かしたふる里村づくりを通して、 地域活性化をはかって行く色々な取り組 山で営まれている農畜産、 切山地区自治会が中心となってな 平家遺跡や自

みが、

県道全通を活かしたむらづくり

付金を得て、平成八年四月に切山の玄関 口の門松に完成をみた。 たえる胸像ミニ公園づくりに取り組んだ。 身で初代川之江市長の故真鍋安次氏をた なって、開設に多大な貢献をした切山出 市内外の人にも呼びかけ多くの人から寄 県道全通に先がけて、自治会が中心に

役立てることを目的・ねらいとして、地 生き甲斐を与え、地域理解と村づくりに 流を深め、 ことによって、多くの人とふれ合い、交 でできた手作りの品を持ち寄り販売する にこ市」の開設を提案した。切山の各家 平成九年三月の自治会総会では、「にこ 地域住民や高齢者に楽しみや

> ことになった。 区住民の合意のもとに五月から実施する 十三回を数える。 て克服しながら続け、 な課題が出たりしたが、話し合いによっ 実際にやってみると様々 丸四年が過ぎ、 五.

が得られる見通しがついたので、 になっていて、 大橋が見える。 かかった。大谷山は眼下に瀬戸内海が開 (標高五○四m) への遊歩道づくりに取り 平成十一年一月からは、 大気の澄んだ日には来島大橋や瀬戸 この山は香川県との県境 尾根の防火帯は歩道があ 市から助成金 大谷山

この山に登っ きやすくし、 ればと、工事 しんでもらえ くの人々に楽 てもらって多 きにくかっ ったものの歩 そこを歩





2

できる農村集落をめざし

設置した。 までの一・三㎞の歩道の西側に桜を植樹 話し合いを持ち、 に取りかかり、歩道を広げたり、 介されたこともあって、 わり実現した。その後、 した。こうした取り組みが山の雑誌に紹 県境のため香川県側と何回も 多くの住民も作業に加 入り口から頂上 かなりの人が登 石段を

時工事を中断していた四月下旬から、 この話が口コミで段々と広まり二百名の 捻出して行くことにし、広く呼びかけた。 の人の名前を付ける)を募り、そこから 切り開いた。経費に関しては協力会員 急にあがった。自治会役員で十分に話し を切り開いて桜公園にしたらという声が 地がよく見下すことが出来るので、ここ 宕山桜公園づくりが始まった。この 植える予定である。 に六百本が植樹されていて、あと四百本 方々が応じてくれた。現在八重桜を中心 (一口一万円、 合って工事に取りかかり、一週間かけて 川県側となかなか話し合いがつかず、 帯は切山地区の共有林で、川之江市街 大谷山の遊歩道づくりが県境のため香 桜二本を植えてもらい、そ 山の 愛

されていない。そこを自治会が主体とな ん園であったが、今は竹林となって活用 また切山の玄関口東側 帯は昔はみか



大谷山遊歩道入り口

の中を何日もかけて行った。 役員を中心に若者にも呼びかけて、 宮の駐車場づくり、 まで課題となっていた下谷八幡神社上の 土釜神社の芝居小屋の撤去をした。 橋の拡張、 としては、 度の取り組み 付近の整 猛暑 今

前向きな姿勢と 実行力があっての活動

り費用がかかっている。愛宕山桜公園に ては、 品づくり、収益面のこと、参加体制等が されているが、 課題となっている。大谷山遊歩道につい っている。にこにこ市に関しては、 にトイレを作ってほしいという声が上が その維持管理に対する経費の捻出と付近 口の休憩所としてよく活用されているが、 ついては、 胸像ミニ公園については、 かなりの人が山に登りに来て活用 維持管理費の捻出、 草刈り等維持管理にかな 切山の玄関 風力発電 特産

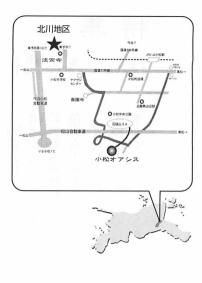
き、 ている。 園化をはかっ 梅も植えて公 サツキ、 て 切 ツツジや り開 による防犯灯の設置、侵入道路のセメン トイレや手洗い場の設置、

自治会

平成十三年 ている。その解決には、 営みながらの活動であり、 である。 だけでは手に負えないことばかりで、 りの出来る小屋の建設等がある。 の活動の参加である。 い台所事情がある。 れていて、やりくりしているものの苦し すぐに実践して行く行動力があったから の前向きな姿勢であり、 や県に協力を働きかけている。 こうした取り組みが出来たのは、 しかし、 自治会の収入源は限ら それにお互い家業を まとまりやすく 地域の若者たち 人的に不足し

*

うに今後とも取り組みを続けて行きたい。 ながらこの切山地区に多くの人たちが訪 として多くの方々のご理解とご協力を得 自然環境保全に心がけ、 上できわめて有利になって来るだろう。 ることになり、 念願であった上水道が切山まで上ってく 向けてくれるようになり、 してきている。 こうした取り組みを続けることによっ より住みやすい地域になって行くよ 多くの方々が切山に関心を寄せ足を むらづくりを進めて行く あと二年もすると長年の 地域住民を始め 段々と活性化



知恵出せ」、「銭出せ」、「力出せ」!!

小松町 明日の北川を考える会 事務局長

井上浩二

農業の現実

私たちの小松町北川地区(世帯数百戸) 私たちの小松町北川地区(世帯数百戸) おたちの小松町北川地区(世帯数百戸) おたちの小松町北川地区(世帯数百戸) おたちの小松町北川地区(世帯数百戸) おたちの小松町北川地区(世帯数百戸) おたちの小松町北川地区(世帯数百戸) おたちの小松町北川地区(世帯数百戸)

株六十 は当たりの政府買入価格は十五年前と比べて三千五百円も下落していて、 業に、魅力を感じないのも当然です。し が機械代を払うために米を作るような農 が機械代を払うために米を作るような農 がは、魅力を感じないのも当然です。し かし、誰しも先祖伝来の農地を守ってい かなければならないという気持ちは常に

うことで、飯米のみを作る農家が徐々にい(農家の意見)から食べたくないといず、かといって、買った米は美味しくなくの兼業農家はやめたくてもやめられ

なるでしょう。
大型機械が出入りできないのがネックにし、農道の整備が進んでいないために、
し、農道の整備が進んでいないために、
しかりできないのがネックに
なるでしょう。

住みよい地域とは何かを考え発足伝統行事の復活と

「明日の北川を考える会」は、平成五年四月に発足し、はや八年目を迎えています。それまでは同じ地域に住みながら、ます。それまでは同じ地域に住みながら、おりとげの際に、酒を酌み交わしながらだような話は出来る筈がありません。 かいのー」ということで、何かをはじめかいのー」ということで、何かをはじめかいのー」ということで、何かをはじめかいのー」ということで、何かをはじめかいのー」ということで、何かをはじめかいのー」ということで、何かをはじめる。

「だんじり」は親睦を図る手段であって、外祭りで「だんじり」をやろうという話でさん」(左義長)を三十五年ぶりにでやろうという話がまとまりました。にやろうという話がまとまりました。にやろうという話がまとまりました。にやろうという話がまとまりました。にやろうという話がまとまりました。にやろうという話がまとまりました。なか理解されず、暗礁に乗り上げることがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。私たちにとってのがしばしばでした。

会の年間行事と取組み

目的ではなかったのです。

花薫る四月中旬には千本ボタンで有名な草刈り及びゴミの収集約一㎞)。ボタンの山川の土手の草刈りや河川清掃(土手の四月と七月には県の二級河川である中

持続できる農村集落をめざし

だんじりかきくらべ



中山川にて いつも出てきません。

うそう竹で高さ十三m、 旬から翌年の一月にかけては七百mほど には親子親睦釣り大会の実施。 ン)を開催。十月には秋祭りでのだんじ の注連縄を製作し、「とうどうさん」(も ールチームとの合同懇親会(ビアガーデ 八月には地元消防団やミニバレーボ (十月十六~十七日)。十一月初旬 (国指定史跡)でボタン花見を開 底辺の直径約八 mの円すい状 十一月中

火入れの前の神事 巻きつけたも に燃やして、 夜明けに一気 連縄を周りに のを小正月の ラで覆い、 の骨組みを作 側面をワ

の回収を年六回実施しています。 営しています。そのほかにも、 年間の無病息災を祈る伝統行事)を運

法安寺

あり、 です。 ニールシートをかけてくれている家庭も 整然と並べられています。それを会員の 予定表は北川地区の全戸に配布されてお しているのは、 資源ごみをボランティアグループで収集 わってくるようで胸にジーンときました。 出来事ですが、資源ごみの上にそっとビ 軽四輪で集めて回ります。ある雨の日の り、二か月に一度の資源ごみの回収日 (日曜日)には、各戸の軒先に資源ごみが 「明日の北川を考える会」の年間行事 地区の皆さんのあったかい心が伝 小松町内で北川地区のみ

会員の固定化が問題

いつも出てくる。出てこない人は る問題があります。出てくる人は が、出てくる会員が固定化してい いろいろな活動を展開中です

河 ますが、本当のヤングは地道な活清 気持ちだけのヤングはたくさんい 動には興味を示さず困っておりま また、会員の高齢化もあります。 誰かいい案がありましたら教

えてください。

ます。不足が出れば会員から徴収するよ 会費と祭りの花代で組織を運営しており 私たちの団体は自主運営の団体で、

出来るのではないかと思います。 なすばらしいまちづくり・地域づくり ます。そうすることによって、持続可能 をモットーに運営していくべきだと思い なったらどうするのでしょうか。 ことに戸惑いを覚えました。自治体から 渡してみると、自治体関連の団体が多い くりは「知恵出せ」、「銭出せ」、「力出せ」 補助が出ている間はいいが、 愛媛県下のまちづくり関連の団体を見 補助がなく まちづ が

匹目のカエルを探しながら、 環境をカエル)を取り入れ、 ③素材をカエル、④考え方をカエル、⑤ すばらしい考え方を持っています。 どの小さな集落のまちづくりグループ 会にしていきたいと思います。 なるような、 を自然に引き出して、五匹のカエルの法 (会員数五十名) です。会員一人ひとりが、 (①見方をカエル、②やり方をカエル、 明日の北川を考える会」は、 何でも話せるような楽しい みんなで六 参加したく 百

過疎、 高齢化が進む中での「滑川ふるさと塾」の活動





川内町 滑川ふるさと塾

消川ふるさと塾 塾長

勝

尉

私達の住んでいる滑川地区は、温泉郡川内町の東部で、周桑郡との郡境に位置にており、国道十一号線から四㎞程入ったところの集落です。その奥には、昔からの景勝地として知られる滑川地区は、温泉郡のます。



たのが一つの要因です。で長男も含め、皆都会の方へ流れていっで長男も含め、皆都会の方へ流れていっまも無く、戦後の高度成長期に集団就職昔は交通の便も悪く、これといった産

滑川ふるさと塾の誕生」

名付けました。毎月第一土曜日を定例会を命名称も単純に「滑川ふるさと塾」とを合わせて話をする機会が少なく、楽しを合わせて話をする機会が少なく、楽しみもありません。それでは一度集まってみもありません。それでは一度集まっている人もいます。しか区に残り頑張っている人もいます。しか家庭の都合や土地を守る為に、滑川地家庭の都合や土地を守る為に、滑川地家庭の都合や土地を守る為に、滑川地

十代から六十代、職業は様々です。在、塾生十四名、内女性五名、年齢は三由で始めたのが平成四年の十月です。現とし、会費五百円、入会自由、退会も自

滑川ためとも祭り」

元ることになります。来年で十回目を迎一回開催しています。来年で十回目を迎得川地区の昔よりの伝説で、中世の武将、得川地区の昔よりの伝説で、中世の武将、目的に始めた「滑川ためとも祭り」は、目のに始めた「滑川ためとも祭り」は、

ております。

ております。

でおります。

の人が中心で行っためとも祭り実行委員会をつくり、滑川力無しでは出来なくなりました。現在は、少なくなり、継続するには地元の人の協力無しでは出来なくなりましたが、回を重ねることにはじめは若者塾の多くの人が手伝って

祭りも参加者が年毎に増え、今年は六

餅をつき、

できる農村集落をめざして

活性化に結びつくものが現れないのが現 ベントの祭りが終われば疲れだけが残り、 百人以上が来て下さいました。 域の人々との交流はできるものの、 しかし、 イ

塾のあり方と 地区の人達との交流

門松で帰省客を迎えることです。 ました。 区の入口の道、 と六年前に始めたのが、正月にジャンボ 自で地元の人たちに歓んでもらえる事を 心を込めて、高さ六 mほどの門松を建て このような中で、滑川ふるさと塾生独 両傍に出来るだけ大きく

以来、 目頭を熱くして語ったことを聞き、それ 郷に帰らないのに温かく迎えてくれたと、 それを見た帰省客の人が年に一度しか故 当初は一年限りと思っていましたが、 雪が降り手が凍えながらも毎

鉢ずつ七十歳以上の人に配ったり、 たチューリップやスミレの花を ています。そこで、杵で紅白 老会が地区の公民館で行われ 三十九日(みどりの日) 年実施しています。 滑川地区では毎年四月 それと塾生が育て に敬



頑張炭を売ってハワイに行こう!

ています。 余興に参加をし、 高齢者との交流も続け

を楽しんでいます。 で「清流ホタル祭り」 六月には、 電柱の古材で作った納涼台 をし、 初夏の一夜

> た。そして、出来上がった炭に塾生の一 当の地域の人達との交流だなと思いまし くれて教えて下さいました。これが、 たちが心配して、毎日誰かが顔を覗い

本 7

人がイラストと"頑張炭" ん)と炭の名前を付け、

ましたが、昔炭を焼いていた高齢者の人 した。初めてのことで四苦八苦しており 導のもと、 た炭を作る話が持ち上がり、 今年は、 炭窯を作り炭を初めて焼きま 以前滑川の産業の一つであ 経験者の指 つ

おります。

ジャンボ門松、

敬老会、

清流ホタル

ハワイに行こう。」などと冗談を飛ばして

「頑張炭を売って

(がんばった



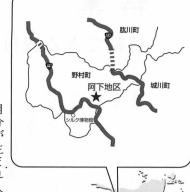
っております。

正月にジャンボ門松で帰省客を迎える

自分達で出来る活動をしていきたいと思 ますが、これからも地元で無理をせず、 り 生一同満足感が残っております。 いけど、 人と一緒に行っており、作業自体は苦し 悩みとして後継者がいないことがあり 炭焼きは自分達が発案して、 苦しみの中に楽しさとして、 地元の

友達、 向け手を取りあって、 が出来、塾生をはじめ地区の人が老後に ず、本当に地域の一人一人が心から交流 独居老人が増える現状ですが、 取り組んでいきたいと思っております。 本当に良かった。」と思える地域づくりに また、始めに述べさせて頂きました様 高齢化、 知人がいる滑川地区で、「暮らして 過疎、 人口の減少が激しく 独居者になっても 暗く考え

「農村であるが故の地域の生きざま」





野村町おたふく会前会長

岡田和彦

自分が生まれ人生の殆どを過ごしてき自分が生まれ人生の殆どを過ごしてきまれる。人口約時にこじんまりとして存在する。人口約時にこじんまりとして存在する。人口約時にこじんまりとして存在する。人口約時にこじんまりとして存在する。人口約時にこじんまりとして存在する。人口約時にこじんまりとして存在する。人口約時による。

産業は主に農業(特に水稲・畜産)であるが、時勢において殆どが兼業で生活あるが、時勢において殆どが兼業で生活があるが、時勢において殆どが兼業で生活があるが、時勢において殆どが兼業で生活に整理され、現代的な農村風景へ様変わいと見せている。

農村・農業集落としての営み

と言われ、地の利を生かした味の良い米集落である。町内でも「阿下の石割米」歴史的にも、阿下部落は典型的な農業

た。 を対し、とか「阿下には嫁にやるな」をか言う言葉が日常のように使われ、重をは夜星」とか「阿下には嫁にやるな」での米主流の生産体制の中、「朝は朝星、の生産地として有名で、昭和四十年代ま

愛媛経済連(現県農えひめ)のモデル地織された。これは集落営農を基本とし、り、部落内に「阿下営農集団組合」が組め、部落内に「阿下営農集団組合」が組



大太郎池での魚取り

で活躍している。田植え・刈り取り・乾燥の工程をライスセンターとオペリーターが請け負いコスト低減を目指す、農業の国際化を年頭に置いた事業であったが、現在では、兼業農家の労働力確保が主流になって、他の地域に出張してま

新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。 新たな動きも生まれている。

農から人へ

く会」である。 総活動とは別に結成されたのが、「おたふそういった生産活動の一方、部落の組

が、元来まとまりのいい雰囲気に加え、どこにでもある若いしの集まりである

持続できる農村集落をめざして



当日は全戸の電気が消え、 共同意識の再確認をした。この日は、 った。このイベントでは、 百七十人全員を農業公園「ほわいとファ ム」に招待しようということになった。 ある時は営農集団と協力し、 年寄りから子供へのタスキ渡し、 阿下部落始まって以来の珍事が起こ 「阿下への想い」を発表するなど、 最高齢者表彰 電話も通じな 阿下住民 うかっ が皆の心の奥底にあったのではないだろ わけではないけれど、 地域存続の危機感

らでも生き生きとした姿に、 させようというイベントである。 この水を抜き、子供たちに魚取りを経験 しゃぎで魚を追い、泥だらけになりなが 間溜まったドブが姿を見せ始めた。 た。一週間近くかけて水を抜き、四十年 はタンパク源確保のため頻繁に行われて 産ができた「部落のオアシス」である。 れた約三千。命余りの農業用ため池で、 なった。大太郎池とは、 け)の池干しをしょうや」ということに も子供は一緒だなーと思う。 いたらしいが、 のおかげで「米どころ」として豊かな牛 その話から、「大太郎池 mほどにも及び悪戦苦闘の中、 約四十年前に途絶えてい 藩政時代に掘ら (おおたろうい いつの時代 過去に 深さ 大は

> ではないだろうか。 加者全員が地域への想いを新たにしたの

石灰石の洞穴を再採掘。夏休みの神秘的 が計画され、三十年前の遊び場であった な体験も提供した。 よっしゃ」そんな話から、次のイベント ことがあるか?」「あれどがいなっとろ?」 今年の夏には、 「おいコウモリ穴入った

とになるなどと、大それた事を意識した 地域を知ることが阿下の歴史を伝えるこ たちは、部落のことを知っとろか?」と

その中で話が上がるのが、

「今の子供

いった話題であった。昔ながらの遊びや

酒好きが多い事から、何となく話が始ま

世代ごとの生きざまを・・・

胸に、 きた農村を守り続けていきたい。 地域を愛し、 先人たちを尊重し自分たちの生きてきた 生きざまが大きく関わっているのではな 時勢と共に変わっていった地域の歴史や いだろうか?「おまえらの故郷は、こが 良さをどう伝えるかは、 は、「身土不二」に言われるように、自然 れた地域で自分たちの子供が育つ」それ 意識と協力により行われてきたことが いにいいとこじゃけん」の地域の想いを の中で育つ子供たちがどう生きるであれ、 の営みなのではないだろうか。その環境 - ?」になる。しかし、「自分たちが生ま 「持続できる農村を目指す」事かと言えば 自分がたまたま役員で、 育ってほしいと思う。これからも、 自然と風土と人間性を積み上げて 子供たちに夢を託す。 自分たちの今の 地域の多くの

「元気が出る村づくり」を目指して





城辺町 山出青壮年クラブ会長

山 正

から、 な小さな農山村である。 化が進み戸数が五十戸を割り込む、 (やまいだし)地区がある。過疎化と高齢 愛媛県でも南の端にある城辺町の町内 山間部へ十㎞程入った所に山出 小さ

る以外、とりたてて、これといって自慢 できるもののない地区である。 区内に町営の"山出憩いの里温泉"があ で、自然環境に恵まれているものの、地 気候が温暖なことと空気と水がきれい

秋祭りを復活させようと結成

出青壮年クラブ」を結成し、取り組みを 三十~四十歳代の青壮年有志により「山 秋祭りを復活させようと、昭和六十年に、 牛鬼の頭 が途絶えていた。しかし、『昔ながらの 山出地区は、永年にわたり "秋祭り" (かつら) "があったことから、

供みこし、四ツ太鼓などが出るようにな 現在では親牛鬼をはじめ、 子牛鬼、子

> となっている。 帰って来て参加し、毎年にぎやかな祭り り、地区外に出ている出身者も祭りには

出ていても、十一月三日の祭り当日には 祭りを復活して十七年が過ぎようとして 支える:後輩が育ちつつある。 かいたり、料理を手伝ったりと、祭りを 都合をつけて帰って来てくれる。 っていたことで、大人になって他地区へ 区内の全員が関わり、一体になっている。 いるが、子供の頃から祭りに関わりを持 祭りには老いも若きも、男と女も、 牛鬼を 地

地区の活動の中心に

活"でスタートした活動も、 るごとに拡がりをみせている。 十七年がたった。最初は「秋まつりの復 「青壮年クラブ」を結成して、すでに 年月を重ね

泉まつり、八月のざいごまつりカラオケ 七月の僧都川クリーン大作戦の清掃活 山出憩いの里温泉施設を利用した温

> 等の地区内行事への参加をしている。ま 四回のソフトバレー大会等々。 十一月にはコスモスまつりも行っている。 おり、草刈りやコスモス・そばの植付け、 た、地区内にある棚田を守る活動もして イベント活動、 大会、十二月のクリスマスパーティ等の 会員間の交流活動も盛んで、四月の花 九月の月見、十二月の忘年会、年に 盆踊り、宮相撲、



きる農村集落をめざし

"学校をなくさない"

行事も衰退し、 なくなれば、学校行事はもちろん、 は廃校の危機にたたされている。 と児童・生徒数が年々減少し、 るが、現時点で小学生六名、 区を校区として「僧都小・中学校」 くさない。取り組み。山出と隣の僧都地 いま力を入れているのが、 さみしい地区に逆戻りとなりか ひいては昔のような活力 中学生八名 "学校をな 将来的に 。学校が 地域 があ

居による嫁姑問題もあり、 く働きかけている。 でもらう働きかけ。 住んでいる地区出身者に山出地区で住ん そこで考えたのが、 ただ住居の問題や同 特に長男に対して強 城辺や御荘町内に 簡単には進ま

> も帰ってくる可能性がある家族が数組あ 二家族が帰ってきてくれたおかげ。今後 今年、僧都小学校で入学式が行えたのは、 と学校存続へ少し明るさが見えてきた。 内に増え、地区内の子供七人と合わせる るという、うれしい事があった。 やっと二家族が地区内に帰って来てくれ 内居住は難しい。しかし、 が必要で、 人、保育園児三人の計五人の子供が地区 これで、 より一層の働きかけを強めたい。 小学校二年生一人、一年生 嫁さんが了解しなければ地区 今年になって、

古里として帰ってこられる 地域づくりを

"元気が出る村づくり"を目指し、会 (上)と佐藤さん(下) と人とのつながりを大 その地域に自信と誉 り"が大切だと思う。 維持していくためには 展開してきた。集落を 員間の交流、 の交流を重点に活動を 、ほこ)りを持ち、 "地域づくり・人づく 地区民と

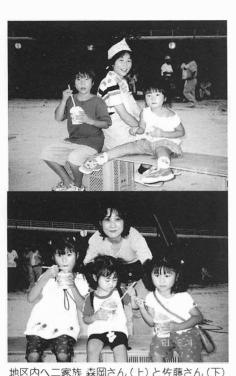
> に多く作っていくかである。 したいという意識を持った人達を、 Γ, か

ない。特に嫁さんの説得には粘りと根件

音を出し合っている。 活動の後は必ず飲み会ということで、 長く"をモットーに、色々な活動を行う。 非常に高く、 ンとしながら、 意思統一を行い、 ている。取り組みの前には必ず役員会で くいる。 イベント好きの "バカになれる人" が多 幸い現在の会員の中には、 各種活動への参加、 信頼関係も強いものになっ "会議は短く、 全会員への連絡もキチ 協力体制が 祭り好き、 飲み会は

協力体制。まじめさとねばり強さとパワ なしでは何事も取り組み困難である。 動が成功するのであり、 ーあふれる支えがあればこそ、 また忘れてならないのが、 女性会員の協力 女性会員の 色々な活

出来、 肩の力をぬいて" 地区民との交流を重視した取り組みを くりを目指して、まず自らが行動の先頭 が住んでいる地区に自信を持ち、 来的には不安材料はある。しかし、 に立ち、基本的には今まで同様、 コッとやっていきたい。 んどなく、非活動の会員が数人おり、 会員の高齢化と新規の会員加入がほと 古里として帰ってこられる地域で 、できることからコッ 自慢が



二家族 森岡さん

切にする中から、その 地区に住みたい、暮ら

論談 まちづくり-

むらおこ ジー لح

能本県 水俣市久木野ふるさとセンター・

沢畑 亨 館長



熟成して美しいものである。 ある。もう少し加えるなら、 く総合であり、集中ではなく分散であり、 エコロジーを考える場合は、範囲をあ エコロジーとは、風土・循環・自律で * * 分析ではな

ることが多いが、 づくりならば、一つの市町村を対象にす らかじめ決めておかねばならない。まち 軒の集落ももちろん対象になり得る。 もっと小さい地域や数

囲を越えては展開できない。 の条件である。人間の活動は、 風土とは、気候、地形、 * * * 植生など自然 短期間には 風土の範

越えられても、長時間は続かない。人間

ことだが、そのためにはエコロジーの考 本的な目的は地域の人間社会が持続する ムである。まちづくりやむらおこしの根 い。表題の「エコロジー」もエコロジズ る社会運動)の意味で使われることが多 え方が役に立つ。 エコロジーは「生態学」という学問だ 「エコロジズム」(生態系を大切にす

* *

とであり、

他地域からの出入りをなるべ

く少なくすることでもある。

捨てるということではなく何回も使うこ

ーに分けるとわかりやすい。

回使って

循環は、

水・水以外のモノ・エネル

短く説明しよう。 本一冊くらいの分量になるが、ここでは があるのか。長く説明しようと思えば、 エコロジーの考え方にはどういう原則

だけ感謝しているだろうか。

なぜ雨が降

ったら「悪い天気」なのか?

は雨から始まる。日頃の生活で雨にどれ

水は生命の根源であり、人間が使う水

うな物質循環は健在だろうか。

うか。 モノを食べ、その廃棄物を田畑に返すよ 衣と住。石油製品にまみれていないだろ 水以外のモノで大切なのは食。 食の次は 近くの

ダに捨てているエネルギーを減らす努力 どには嫌われていないようだが、では自 はしているだろうか。 分でそれを取り込んでいるだろうか。 エネルギーの元は太陽の光と熱。雨 IJ

らう)で水・モノ・エネルギーをどれだ で買わない け手に入れているだろう。 すべてを買う消費者が増えているが、 自律とは、 (自分で作る、交換する、 人任せにしないこと。 * * エコロジーとは何か。

の思い上がりでどれだけの失敗を重ね まだ失敗は継続

中である。 来たことか知れないが、



不思議なことだが、必ずそうなるのであ モノにもエネルギーにも関心が強くなる。 たさを身に染みてむだ遣いをしなくなる。 自分で水源を持てば、水を使えるありが 合と、どちらが災害に強いかは明らかだ。 庭に小さいタンクを備えて水源を持つ場 各家庭に水を配る現在の上水道と、各家 起こる。分散は、小さい単純なシステム 自律性が高まる。 を各地に分配すること。単純なので、 ステムが必要になる。専門化や分業化が 大きくなるので、 人でも運営できる。大きいダムを作り、 集中は、 一ヵ所から分配する。 水に関心が強くなると 難しい複雑な機械やシ 規模が

なりの美しさがある。

環境によいモノは、

んと美しくなる。

人間や微生物の働きが

年を重ねてだんだ 古くなっても古い

けの水路にした例はいくらでもある。 合である。 ある。そういった全体を考えることが総 泳いだり、野菜を洗ったりする場所でも え、プランクトンが浮いていて、 かし川は魚が住み、昆虫が住み、 での性質を探ること。川を水が流れるだ 分析は、 物事を細かく分けて、 その中 人間が 藻が生

環境に良い暮らしを選択することはでき する人間活動は難しい。 現代社会で、 一人の百歩より百人の一歩。

* *

を出て田園へ。 量の植物を育てるしかない。マンション るのはもっと大切。 らすのも大切だが、 消費生活を通じて環境に悪いことを減 環境に良いことをす それにはある程度の

熟成を助ける。 民家の磨き抜かれた廊

エコロジーを完璧に実現

でも、

少しでも



▲城川町田穂の棚田

「日本の棚田百選」に選ばれています。

城川町魚成の茶堂▶





「ちょっとひと息」ということで、最近おじゃました地域で撮って来た農村風景の写真を載せました。

このほかにも、みなさんの地域でも昔ながらの暮らしや文化が漂う農村風景がたくさん 残っていると思います。

みなさんの中にある農村風景は、 子供や孫の世代に農村の良さを伝え、 いつまでも集落を持続させるために、 残しておきたい「心のふるさと」で はないでしょうか。



▲三崎町井野浦の農業倉庫 風の強いところなので、倉 庫を強風から守るために、石 積みで囲んでいます。

まで残してお

たい棚田の

▲宇和島市遊子の段々畑

「耕して天に至る」とは、まさにこの段々畑。 ハマチや真珠の養殖が盛んになるにつれて畑が荒 れてきて、地元の方たちが「守ろう会」を結成し ました。

城辺町山出の棚田▶

「曽孫まで残しておきたい棚田の曲線」

村営百貨店の出発点は

産業振興と地域活性化

の磯砂山 常吉と下常吉からなる旧常吉村で 都府大宮町の南西部に位置し、 私の住んでいる常吉地区は、 町内で最も高い海抜六六一m に囲まれた山間農業地域 上 京

地区の概況

総世帯数一五八戸、人口五七

に高い地域となっています。 疎化と高齢化が進み、 総世帯数の五十五%を占めていま 一十九・二%と大宮町内で六番目 [は半減しており、 昭和三十年頃と比較すると人 そのうち農業は八十七戸、 年々地域の過 高齢化率は

\$ 野菜を栽培 作り裏の畑 細々と米を の影響で、 X するといっ で自家用の の農業 高齢化



至峰山

常吉村営百貨店

国道312号

北近畿タンゴ鉄道

丹後大宮駅

奥大里

下常吉

平地地蔵(

村づくり委員会の設立

至福知山

備をした農地を後世に残してやり 気」、平成元年二十三町歩の基盤整 農業を手放した 「ガチャマン景

> されました。そして、子どもたち たい、 業に取組みました。 て、 ウルグアイラウンド対策の場とし モットーにして、様々なソフト事 みよい活力あふれる村づくり」を 会を組織することになったのです。 くる為にと考えて、村づくり委員 が地域に夢を持てるような村をつ いました。平成七年には、 守っていかなければならないと思 歳代の住民二十一名が集まり、 メンバーには三十歳代から五十 村づくり委員会の設置が提唱 地域をおこしながら農業を 町から 住

織物業と水稲を主とした常吉地

した。 それぞれ常吉の「農業の活性化 目標のもとに活動を広げていきま ニティ部会」の三つの部会を設け 化部会」「生活環境部会」「コミュ 環境保全」「住民の親陸」という 村づくり委員会には「農業活性

> 練り、 したが、

翌年の区の総会にはかりま 実質的に地域の農業を支

委員会ではその為に色々な案を

住民の理解はイベントで

えているお年寄り達の反感はきび

さえていない者が農業のことを口 しかったです。「自分の田んぼもこ



侑常吉村営百貨店取締役社長

大木

満和



住民に認められたジャズコンサート

出しするな」と言われました。

ベントとして認められています。回となり、今では村・町の名物イジャズコンサートは今年で第六



(有)常吉村営百貨店

| 有常吉村営百貨店の設立農協支所閉鎖と

しかし、やっと地域の人々がひとつになって村づくりに頑張れると思ったら、農協の常吉支所の廃と思ったら、農協の常吉支所の廃止問題が出てきました。常吉にとっては、農協の支所が常吉にとっては、農協の方所がは活の基盤だったわけです。三ヶ月間の反対運動をしましたが、地域には何も残らない時間が過ぎていきました。

そのころ、村づくり委員会では、そのころ、村づくり委員会では、かなさんの理解をあた。そこで、「農業と福祉と暮ました。そこで、「農業と福祉と暮らし」を柱にしたお店づくりを村らし」を柱にしたお店づくりを村の人に提案し、みなさんの理解を得ました。それは、これまで私達のよってきた事(遠回りでしたが、地域の為に行った各種イベント)

常吉村営百貨店」を設立しました。吉の住民三十三名が出資して「宿された農協の支所を借り受け、常くして、平成九年十二月に廃止

持ち込めば売れる、

h, により、 取り組もうと、 動はより充実してきました。 がってきています。百貨店の設立 なく、新たに販売用の野菜栽培に 又百貨店を通じて販路も拡大され くり」の拠点として、常吉になく 心のこもった農産物の販売所であ たことにより、自家用野菜だけで てはならない存在となっています。 た竹細工、手芸品等、「売れる物づ この百貨店は、 野菜のみならず、住民の作っ 常吉村づくり委員会の活 色々気運が盛り上 新鮮で安全な真

ていきたいと思います。を具体的な目標とした活動を続けたい常吉」をめざして、次のことたい常古は、かのことがある。

④農業後継者や担い手育成のシ

⑤高齢者が安心して暮らせる村⑤地域で生産された農作物の直売

⑧地域の気持ちをひとつに村元経済の活性化

愛着を持てるふるさとづくり ③将来を担う子どもたちの誇りと気づくりイベント

らも頑張っていきたいと思ってい をやろう」をモットーに、これか 難しいことを言わないで楽しい事 なければなりません。「とりあえず、 が参加できるイベントを通じ村の 力ある農業をめざして、住民の皆 財産を、より良い形にして安らぎ には、先人から受け継いだ貴重な 人達の気持ちをひとつにしていか でいくことだと思っております。 のある農村として将来へ引き継い ています。様々なことを実現する いかにやる気を持てるかにかかっ その為には、魅力ある農業、活 村づくりの成果は、 村の住民が

はじめに

たいうか、気が乗らないことが要因でたいうか、気が乗らないことが要因でたいうか、気が乗らないことが要因でたいうか、気が乗らないことが要因でたいませられたのか引き受けてしまいました。テーマは「引き算型まちづくり」に乗せられたのか引き受けてしまいました。テーマは「引き算型まちづくり」にかないのか、一緒に考えるページなれいかないのか、一緒に考えるページなれいかないのか、一緒に考えるページなれいかないのか、一緒に考えるページを有き義に活用することにしてはいかがです。

「である」調で書き留めますが悪しからず。章表現を「です」「ます」調は止めて、以下は、気持ちを引き締める上で、文

で地域づくりに取り組んでみると、発展頃地域リーダーと共に公務員として現場流の言葉の定義遊びは止めにしよう。日と定義めいた論考は好きではなく、役所とけしないが、「引き算型とはなんぞや」今時、引き算型などという言葉は社会

変わっていく。そして「右に習え」と、 期の期待と夢が一人歩きし、先進事例に でしか評価できないにも関わらず、草創 進められた事例は多いが、成功した事例 る人口対策に住宅政策や企業誘致が特効 年前、三十年前の常識といえば、減少す る人は少なくないであろう。例えば二十 などいい例であろう。 いく事例を善として評価していく価値観 類似事例が雨後の筍のように形成されて は意外と少ない。成果は十年後二十年後 薬とばかり、巨大な投資のもとで事業が しまう。非常識という言葉に抵抗を感じ しようもない非常識な言動を振りまいて に染みつき、一 歩役所の外に出るとどう もまた十人十色。長年役所に籍を置いて 人十色、欠陥を欠陥として認識する視点 介なものである。ものの見方考え方は十 しそうであるが、やってみると以外に厄 される。壁を壁として認識することは易 いると、 しない、 知らない間に役所の常識が身体 発展させない様々な障壁に悩ま

さらに非常識な言動が拡大する。二十世付する機関だけに、このことを良かれと所とは、地域住民に対してサービスを給ること」と大目に見てくれる。そして役「お上(役所の人)がいうこと、お上がす地域の住民は多くの場合純朴なだけに、

らない。れ、訓練されてきたことが悔やまれてな紀の後半は正にこんな時代の中に置かさ

引き算型とは、我々が役所の中で、

るが。

るが。

なが。

なが。

ながらでもある。識者からすれば解りきったことを今さら・・・といわれそうである。

はい直そう、考え直そうと思いついた
は社会の中で身につけて常識を、異なった視点
域社会の中で身につけてきた常識、住民

る。 じる人は少なくはないであろう。おかし わらずとすれば、誰かが、どこかで狼煙 りを進めようとしている行政姿勢も相変 ミュニティもまた崩壊寸前といった方が ととして地域を治める仕組みや組織をし 拠点である生活圏で見るとおよそ自治の 組織を乱す反動者に仕立てられ、 表現ではあるが「何かがおかしい」と感 存在すら危うくなっている。オーバーな 域をはじめ地方と目される地域は、その を上げ、行動を起こさなければ、 てコミュニティと呼んできたが、このコ 姿は見えてこない。地域住民が自らのこ つあるコミュニティに依存して地域づく いいかのもしれない。そして、崩壊しつ いわれる地方の自治が、 いことをおかしいと言って行動すれば、 財政的には三割自治とか一割自治とか 黙って成り行きに身を委ねることが 住民の暮らしの 山間地

うもない。 日の状況をみる限り、打開の芽は吹きそ得策とばかり、心ある人が貝になった今

もが配置され、公民館主事、社会教育主 と思っている。かといって、これまで公 を、今こそ真剣に考える時代ではないか らないこと、やらなければならないこと 力は一向に生まれない。残されたモノは は万全の備えである。そしてまちづくり 事が置かれている姿を見ると、タテマエ 置され、市町村には研修担当の職員まで カデミー、都道府県レベルの研修所が設 わけでもない。自治大学校から市町村ア また公民館等の生涯学習活動がなかった 本当に地域住民のために考えなければな 汗をかくというか、働いていていく上で、 十一世紀へ向けて、私たちが地方自治体 は過ぎ去ったことである。 お荷物になることだって少なくない。こ のであるが、モノはできるが期待した活 て学び、ノウハウを学んで地域に関わる についても多様な専門的知識を公務とし 務員研修が疎かであったわけではなく、 の職員として、地域社会の担い手として んな筈ではなかったのにといっても所詮 こうした地域社会の中で、これから二

長年にわたって花形企業としてもては

ものになってきた。に町村合併の名の下でリストラが現実のじまった。そして公務員の世界にはすででが、構造改革の名の下でリストラがはやされた証券、電気、IT産業に至るま

成している典型かもしれない。

務を放棄して、保身を前提に価値観を醸むで受け止めている。公務員が公僕の責職を前提にして町村合併を既定の事実と利に身を退く方がいい」と、あたかも退職を前提にして町村合併を既定の事実と利に身を退く方がいい」と、あたかも退るが、対している典型かもしれない。

者を自称する岡野さんの見立てでは」と では、というコラム欄があるが、 そこの中に面白いことが書いてあった。 そこの中に面白いことが すけれども)は、政治家が五%、それか すけれども)は、政治家が五%、それか すけれども)は、政治家が五%、それか すた」というのだ。市町村レベルでこう 考えたら、多くの人が政治業者かなと思 ったりしなくもない。そして政治業者に 我々公務員は媚びへつらって、自分の仕 我々公務員は媚びへつらって、自分の仕 る。これを言ったのは、前明治大学長の る。これを言ったのは、前明治大学長の る。これを言ったのは、前明治大学長の る。これを言ったのは、前明治大学長の をとおしてそのような環境を作ってい るところがあるのではないかと思っていると、そこ

などを見ると、政治の世界だけではないながをを見ると、政治の世界だけではないなが、これは退官記念の講演の中で語られた言葉らしい。それから最後に、「日を盗んで、夜な夜な遊び歩く、どうしようもない病人がたくさんいる状態だ」という。これは退官記念の講演の中で語られた言葉らしい。それから最後に、「日本政治を五十年間定点観測してきた岡野本政治を五十年間定点観測してきた岡野さんは、日本の政治に欠けているのは、日本の政治に欠けているのは、日本の政治になっている。「日本の政界に対すると、政治の世界だけではないの状態によっている。「日本の政界に対すると、政治の世界だけではないの状態によっている。「日本の政界に対すると、政治の世界だけではないの状態によっている。

状況が結構あるのではなかろうか。いうのは、コラムの中に出てくるような私たちを取り巻いている地域の環境と

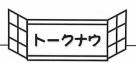
章になっている。

ようだから困る。」というのが、最後の文

行政、住民、議会が縦糸、横糸が結びあっての地域づくりだけに、考えれば考ある。引き算型のまちづくりを志しても、ある。引き算型のまちづくりを志しても、ある。引き算型のまちづくりを志しても、の税金で生活が保障されている公務員にはでき返される。それでも挑り、機会が経糸、横糸が結びをはならない。

にしていきたい。紹介しながらこのジャンルを楽しいもの紹介しながらは、枝葉末節を含めて事例を

内子町 一岡田文湖



楽しめる「お化け屋敷」の企画実施に参 L」に興味を持ちメンバーとなったの 日々まちづくりや地域活動に取り組んで G O O D の空き店舗を利用し、子供から大人まで います。私が、この「GOOD したことが始まりでした。「お化け屋 はじ 今から約三年ほど前の夏、新居浜市 は、入場料一人五百円、 一務しているかたわら、 め まして。 WILL」の理事として、 私 は 現在会社員 NPO法人 土曜夜市を W I L とし

> 的とした「お化け屋敷」を企 るほど、 ンティアを主に財政面 たのです。 くの方々の協力を得て、 ています。 ティア団体』という日本で最 強いミッションを持ち活動をし この使命感のもと、 で支援 地域活性化を目 画 初と自負す するボラン 市内の多 開催

になり脅かす練習を、毎日熱心にしてい広告作り、それに自分たちが「お化け」分の仕事が終わってから、会場の設営やメンバーや一般の方々もそれぞれ自

世し たことは、三年経った今でも感謝の気持いる かげで、このチャリティーイベント「おいす 本当に嬉しかったです。来場者やボランス たい」と申し出てくれた温かい気持ちが、ン

ちでいっぱいです。

私自身本当に、

人と

0

触れ合いの素晴らしさを知る良い経

は、これから先も様々な面で『ボランテてい 「GOOD WILL」主催ボランティア団体へ寄贈させ指す市内のボランティア団体へ寄贈させ指す市内のボランティア団体へ寄贈させ指す市内のボラとティア団体へ寄贈させた。この「公開支援基金事業にて、地域の様々な課事業」も今年の九月八日に第四回目を終事業」も今年の九月八日に第四回目を終事業」も今年の九月八日に第四回目を終事業」も今年の九月八日に第四回目を終事業」も大き、「はなりました。

立てるよう努力して行こうと思います。 か・地域活動』において皆さんのお役に ークをどんどん広げることで得た出会いた。これから先も、自分自身がネットワた。これから先も、自分自身がネットワ たみら、いろいろなことを学び多くの 私は「GOD WILL」と出会っ

「GOOD WーLL」との出会い

NPO法人「GOOD WILL」

理 事 高橋じゅん



私たち「GOOD WILL」は、『ボラとしない民間の社会貢献活動団体です。ョン(社会的使命)を持ち、営利を目的って、社会的でのは、ミッシーをもそもNPOというのは、ミッシー

集したわけでもなく、みんなが集まり作つの間にか「GOODWILL」のメンバーになって、自分も頑張ってみたいたの一人が私ですが、「楽しいイグトちの一人が私ですが、「楽しいイグトまの一人が私ですが、「楽しい おがらも、いと感じるようになったのです。

ます。

この「しくみ」を続けて行きたいと思いする大切な基金として利用されるよう、

はまさに市民のために、市民自らが運営

ア』を支援して行きますが、この基金

1

|体、そのうえ子供たちまでが「手伝いも、メンバーだけではなく地域や各種期間中「お化け屋敷」が始まってか

か 0 無 研 0 ン 境 今 農 農 掛 サ 管 5 究 で 事 薬 け ル 理 対 年 協会を あ 組 栽 タ 象 は 七 つ 培 合 月 法 を 昨 卜 L 15 設立 人 行 て、 を 年 Ν 行 無 0 つ Р て 夏、 茶 温 L う した。 0 組 州 Þ 13 法 大学 溒 る 織 ₹ 人 で 第 東 力 を 農 選 宇 ン め あ 林 等 卒 る。 次 択 和 業 畜 郡 産 0 たこと 論 水 有 7 業 明 機 文 産 浜 0 \mathcal{O} 切 町 \mathcal{O} コ 環

61

7 13 お 安 ŋ 茶 全 Þ 性 今 袁 ゃ 日 は 自 ま 約 然 で Ŧī. 環 0 + 境 戸 0 配 年 農 慮 問 家 L 弱 た か 柑 5 か たく 橘 0

が と。 き 営 肥 で き 業 た か た。 た。 は、 廃 ス 料 を か は き タ 12 棄 ゃ 強 行 ŋ 物 1 作 近 環 代 作 業 15 狐 業 L 業 境 ル が は 取 理 0 農 7 が 業 15 業に 機 き ŋ 0 自 が ょ 農 環 問 械 然 自 上 土 11 業 化に ردمح 境 げ 題 壌 お 然 産 0 とこ 景 破 5 等 汚 け を 業 多 大きく 壊 を 染 る多 観 で n つ 面 ろ 産 る 招 Þ を < あ 的 よう 農 が 業 水 維 る 13 2 機 で 7 質 依 薬 持 7 能 1 汚 あ 存 لح 1) 61 を るこ る な 濁、 多 7 さ る L 謳 つ た 化 最 13 0 n ま 7

0 法人農林畜水産環 代 表理 境管理協 会

Ν

Р



住 は、 ŋ 挑 れ 0 4 事 込 早 境 て を む み、 規格 業 戦 例 ことに 行 7 分 は る つ 殆ど まとめ 野 7 取 馳 Ι 得に せ そ き S O 1 0 なっ そ な Ι 参 \hat{O} た じ、 集 向 信 して S 念の 団 け 0 4 共に 模 約 لح 1 0 そ 六 延 L 範 4 0 れ 0 کے 0 最 ケ 長 T 1 を 体 す 月 線 全 0 善 0 験 知 認 間 る を 玉 1 上 を b 尽 0 認 ī 証 で 的 卒 Ż た 証 \mathcal{O} 地 取 15 が 私 得 取 15 玉 知

前

ま

で

は

何

0

疑

1,3

b

な

<

あ

る

لح そ

11

う。 取

S 4 \mathcal{O}

0 は 認

1

4 n を

0

()

1

0

導 念

Ļ

0

ŋ

組

か

5 得

が

正

場

S

0 無

4

0

0 は

1

証

取

L

た。 無

L

か Ι

茶

R

景

今

年

0

月

15

事

換

性 持 政 n \mathcal{O}

慮

が L 策 主 が 続 た 必 た、 強 が 61 張 性 要と 調 0 盛 わ b 1 さ あ で ŋ WΦ な わ n る 込 る 7 つ WΦ ま き 循 新 ñ てきた る た。 環 環 近 型 業 境 代 社 有 基 保 農 \mathcal{O} 会 畜 本 九 で 全 業 九 複 法 あ 型 か \mathcal{O} 合 15 九 る。 5 年 農 形 は 移 環 態に 業 農 15 行 境 \mathcal{O} 業 制 \mathcal{O} 必 ょ 1 環 定 配 転 要 境

NPO法人農林畜水產環境管理協会 (AEQ)

多額の費用がかかるISOの認証取得に 取り組む環境意識の高い農林畜水産業の組 織に対し、割安で取得のコンサルタントを しようと、今年7月に愛媛大学の大学院生 らが中心となって設立した。

- 事業内容
 - ①ISO取得のコンサルタント、 保守管理等
 - ②環境報告書作成
 - ③環境会計導入支援
 - ④農業関連ソフトウェアの開発 ⑤各種調查研究業務
 - ⑥ホームページの作成代行
 - ⑦循環型社会モデルの構築設計
- 8環境教育モデルの設計及び構築

して 0 7 者 齢 لح 15 0 わ \mathcal{O} 15 L ス 方で を背 7 は大 ŋ 非 緑 化 0 لح 業 17 n 信 情 夕 を守 明 力 問 価 ŋ 者 7 を 頼 報 1 \mathcal{O} な 副 は る 題 格 \mathcal{O} だ き IJ 負 関 開 ル 内 体 15 競 た。 つ 等 b け P つ 係 \mathcal{O} が 13 示 部 験 ر ٠ ر ٠ 7 IJ て必 増 Þ 争 0 \mathcal{O} を 確 ょ を 15 5 は、 は 加 j や で b わ テ 築 行うことに お 立 b 数 死に を < L É わ 農 あ 0 が イ け 私 ると わ T 年、 が 業 で 玉 0 7 る は ことに 我 に n き 玉 \mathcal{O} は 農 あ 闘 更 思 いこうと自ら 環 Þ 思う。 なく、 わ 7 農 農 担 業 る つ 境 ż 業と が 繋 n 13 業 業 61 0 b 7 ょ は 15 な 問 る。 手 が 0 \mathcal{O} \mathcal{O} ŋ 外 考 13 わ 環 る つ 食 0 0 前 \mathcal{O} 輸 私 題 لح 部 慮 が 境 7 農 入農 たち を、 減 は、 新 途 L 消 15 L 玉 لح 業 は 少 1 規 7 \mathcal{O} 費 積 た か 農 کے 参入 け を守 産 今 突 0 暮 者 極 経 高 うき 業 関 つ 物 人 \mathcal{O} 5 的

Ł 未 思 来 つ 15 7 少 ĺ る で \$ 貢 献 すること が で き れ

ば



岩手に坂本ゆりさんを訪ねて

吉本哲郎さんや、仙台市の結城登美雄さ が『地元学』なるものである。水俣市の やっているのよ。」と教えていただいたの りさんから、「岩手では今、こんなことを も、名前のとおり野に咲くゆりのように、 おられる。そういう忙しさの中にあって 日間を過ごさせてもらった。そこで、ゆ 生活しておられ、なんとも心穏やかな三 いやそれよりももっとしなやかに優雅に 域づくりアドバイザーとしても活躍して りさんを訪ねた。アトリエ野の花の代表 縁あって岩手県岩泉町に坂本ゆ 地域内はもとより、県内外で地

> るそうだ。 んが提唱されてあちこちで実践されてい

地元学を知る

を日常的に創りあげていく知的創造行為 自問自答しながら地域独自の生活(文化) 止め、内から地域の個性に照らし合わせ、 とを知り、 主体になって、地元を客観的に、地域外 ただ調べて知るだけでなく、地元の人が 地元に学ぶことである。郷土史のように である。 第一歩に、外から押し寄せる変化を受け の人の視点や助言を得ながら、地元のこ いわゆる地元学とは…名前のとおり、 地域の個性を自覚することを

も持てないのだろうか、以前から私はそ うか、自分が住んでいるのに、全然愛着 んな疑問を持っていた。 か、本当にそんなつまらない町なんだろ 話を聞くことが多い。本当にそうだろう 若い人もどんどん出て行ってしまう、活 が地元の良さを見直し、元気をつけてい もしれないが、要は地元に住んでいる人 気がなくてつまらない町だ。」これに似た くことかな、と自分なりに解釈している。 田舎にいると「自分の町は何もない、 少々難しい定義であるように思えるか (風に聞け、土に着け【風と土の地元学】) より

が素敵な風景として見えてくる。普段何

本の木であったり、

名もない小さな川

気なく見ているそんな場所が実は地域の

安心できない意識、違ったことをするこ 競争意識、あるいはほかと同じでないと その一方で、隣りの地区、町の間での

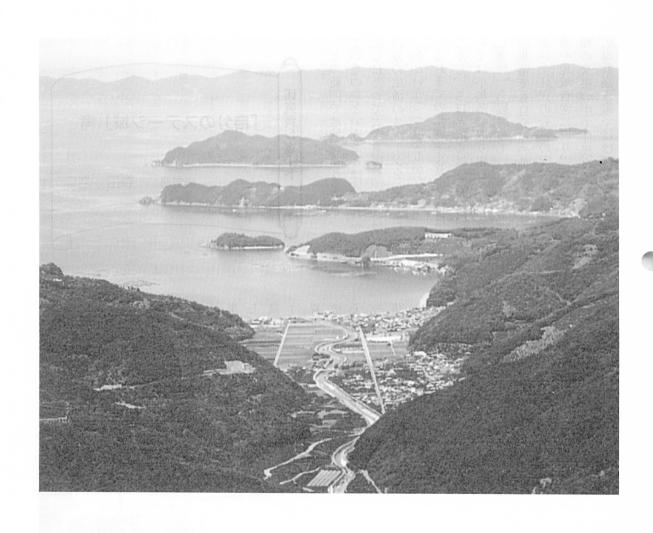
とに対する抵抗、ひたすら突出せず、遅

だからこの「地元学」という考え方を

とする、そこには何か無理があるのでは うな気がしたものだ。 知った時、そうなんだ、と納得できたよ ないか、そんな風にも思っていた。 れず、皆と足並みをそろえて行動しよう

そこ(地元)に住む、ということは、 住みつづけること

より能動的な行為でなければならない 単に住むという行為だけではなく、住み の場所から見る夕日であったり、 場所ではなく、たとえば夕暮れ時、○○ 風景にしても、いわゆる名所と呼ばれる ある、人がいる。でもそれはずーっと住 その土地ならではの風景がある、気候が 糸口として地元学があるのではないか。 どこにその意義を見出すか、それを探す 続けることに対して何らかの意義を持つ、 んでいるとなかなか良さが見えてこない。 自分達の住んでいる地域にはどこでも 大きな



元学の第一歩。まず足元を見つめるのだ。宝物になり得る、それに気づくことが地

ワークショップに通ずるもの

のではないか。
先日、ワークショップの実技を学ぶ機会があった。ワークショップとは作業場が、非常に手荒い表現ながら、この方式が、非常に手荒い表現ながら、この方式をいわゆる地元学の一つの手法といえるのではないか。

えてくるのだから。

まず地域の特性・現状を知らなければまず地域の解決は出来ない。現状を知った上で、では何かより良い方策はないのか、で、では何かより良い方策はないのか、

よそと同じではない素晴らしさ、違っているからこその楽しさをもっと知るべきだと思う。知る努力をすべきだと思う。地元とは読んで字の如く地の元、すなわち自分で立っている足元そのものだ。足元を見直さない限り、地域のことは語れない。それは空論になってしまう。しっかりと足を地につけて立っているものこそがしっかり語れるのだ。

いきたい。
このことを誰よりも自身に問い掛けて

研究員レポ 「自分のステージ域」 考 浩二 研究員 森田

くかということになるからだ。 自分の生活のステージをしてとらえてい たしにとって大変重要だ。 ていくのかということは、 どの範囲で地域づくりを考え、 それはどこを これからのわ 実践し

> けている。 高い評価を受

滋

し、全国でも

位で活

動

報の交換の中で住民自治を育んでい 広島県高宮町ではほぼ旧町村単位ごとに 画や地域経営に携り、 全戸全住民の合意の元で、 の集落でも自分達の地域に誇りを持ち、 し運動 町では小集落で取り組む「1/0村おこ しかし、さほど広くは無い。鳥取県智頭 これまでの地域づくりの単位は様々だ。 を展開している。 外部との交流や情 自らが地域計 二十世帯以下

る。

館 十三ある集落 良町では町に る の行政区にあ は町内二十一 宮崎県綾町で 会を中心に、 ある振興協議 自 滋賀県甲 治公民

位では、 村は、 まちづくりができないことを経験してい とよばれる町も、 訪ねる機会のあった地域づくりの先進地 子町で村並み保存を実践する石畳地区も 賀県高月町の 略を立てているのではない。 雨森地区の取り組みも戸数一一五戸、内 (材などがそれぞれ異なり、 四〇戸の顔の見える範囲だ。これまで 昭和三十年ごろ合併した行政の単 地区や地域によって規模、 町全体を一つとして戦 画 多くの市町 的には 風土、

現在の行政末端組織となっている集落 結い」だとか「巷」 般に、 「田舎」と呼ばれる地域では、 」と呼ばれる単位から、

ないことを説かれた。「行政機構改革で機

地域社会の範囲を混同して考えてはいけ

るとき、

行政機構

(あくまでも機構)

町村合併に揺らぐ農山村を考える」とい

うテーマで講演いただいた。合併を考え

か。

先日、

熊本大学の徳野貞雄教授に

市

襲っている。

幾重にも描かれる円のどの

範囲の円内で自身の自己実現を目指すの

広域の「平成の大合併」と呼ばれる波が

も多くなっていく。そして今、それより

現在の市町村と面積が拡大し

それが集って小学校区、

中学校区

(自治会)、それが集った大字

(区 (区

また 旧町町

自分たちの風景づくり

滋賀県高月町雨森地区

それ以上に地域の課題が深刻になるんじ としても、 役場の職員はまた食えるようにはなった んじゃないか。つまり、合併したとして、 としても、現在山積している地域社会の ゃないか。」といわれる。全くそのとおり 地域住民は何も変わってない。 少子高齢等)は解決しない

構自体を大きくして、効率がよくなった 以前に、 だと実感する。



ことは明らかである。瀕死の農山村の将 という悲壮な決意で臨まない限り、 む人たちがいなければなくなってしまう 棚田の風景も里山も照葉樹林もそこに住 後、役所の場所がどこになるのかという いま、農山漁村集落は、「生き残るんだ」 消滅してしまいそうだ。美しい

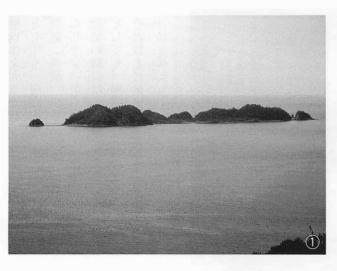
地域づくりを考えていける。 でも存続してはじめて、大字だと 集落が、万全とまではいかないま 足元の集落を考える。その小さな っていくことはできない。まず、 ければ、 らで集落存続の方法を探し出さな 数の集落が陥っている。」住民自 授曰く「『村機能不全集落』に多 法はとても有効に思える。 集落の将来を住民自らが考える手 状況と十年後の集落の姿を描き する「集落点検」という、現在の 来を考えるとき、 小学校区だとかいった範囲で "農"や農地、景観は守 徳野教授が提唱 徳野教

る「地元学」もぜひ地域で取り組 という問いに、 字の範囲で考えているんですが。 みたい。「私はその 水俣市の吉本哲郎氏の提唱され 吉本氏は「いいと 「地元」を大

> なら、 るが、「顔が見える範囲」と思える。 会が残る「大字」の範囲だ。消防団組織 の成り立ちから自然村といわれるムラ社 思いますよ。」との返事だった。私自身が 部」になるだろうか。 人称で、 分団のもう一つ細かく分かれた 地域、 地元と思えるのは、 言い旧されてはい

忘れまい。そこで地元を学び、コミュニ 可能に近い。そこは、ネットワークを広 ティーを再構築する。 人材を含め限られた地域資源だけでは不 をまかなえ、 創出できないように、その地域内で全て でも小さな集落だけではすべての雇用を こそ自分の地域で正面から取り組もう。 本三原則の「自治」「学習」「協働」を今 囲で目指そう。提案されているSCの基 C)」に、できるだけ近づくことをその範 る「サステイナブル・コミュニティ 域づくりのキーワードの一つになってい 彬氏らが研究・推進され、これからの地 営利活動法人NPO政策研究所の木原勝 していけることがたくさんあることを 弊誌六七号でも寄稿いただいた特定非 知恵の交流を図ることにより、 完結できるとは思えない。 カバ Ŝ

まちづくりのステージがそこにある。 私の場合、 今学んでいる地域づくり、



MY TOWN , うぉっちんぐ

ジャ目デス。を追ラテス

市だが、関係性では保

内側とより深い結びつ

①)。行政区は八幡浜

が浮かんでいる

島という面白い無人島

保内町の沖合いに佐

佐島ウォッチン



副崎 直司

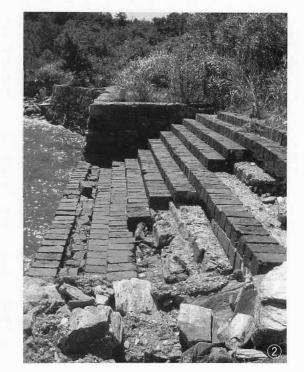
目配りしたが、今回は な近代化遺産について

前号では県下の主要

で渡る他はない。川之 石港(保内町)から約

便は無くチャーター船 きの歴史がある。定期

明治二十六年開設の佐島製錬所。 錬瓦という。製錬滓(かす)を固めたシ と呼んでいるが、鉱業用語で鍰(からみ) ロモノでメチャ重い。これは一個四十㎏ る証でもある。地元ではこれを佐島煉瓦 実はこれが、この島の歴史を雄弁に物語 赤褐色、茶褐色、黒褐色など取り取り。 ら四角い枕状のものを並べている。 わせた例の階段状の岸壁であるが、 し変わっている(写真②)。潮の干満に合 っているが、雁木(がんぎ)の様子が少 かりある平地へ接岸。かつての岸壁が残 一十分、細長い島影の中央部に、少しば この島は製錬所の島だったのだ。 何や



引っ張り出されることとなった。 稚拙な製錬技術では高浦(三崎町)、女子 半島はいずこも銅山開発で沸き、ゴール 案外知られていないが、明治期の佐田 阪島より早く出来たというから驚きだ。 た事で洋上にある佐島が歴史の表舞台に 錬所の煙害は避けられなかった。そうし コだらけの半島だった。しかし、 ドならぬカッパーラッシュ。ここは穴ポ 舟着場の近くにその鍰錬瓦を積み上げ あの別子銅山の製錬所として名高い四 (伊方町)、柳谷 (保内町) などの各製

ように建ち残っている。隣接する赤煉瓦

屋根も無い四角い箱の建物が亡霊の

26





だ。 (写真③)。百年前後の時空を越えている (写真③)。百年前後の時空を越えては波打ち際に大小の鍰錬瓦がゴロゴロ。には波打ち際に大小の鍰錬瓦がゴロゴロ。には波打ち際に大小の鍰錬瓦がゴロゴロ。には波打ち際に大小の緩すのかるのか。辺りの小ぶりな建物には小粋な丸窓も付いての小ぶりな建物には小粋な丸窓も付いての小ぶりな建物には小粋な丸窓も付いて

鍰の台地と黒い砂の広がりが我々を迎え 工場だった所か。もっと進むと、夥しい 界が開け、大量に寄せ集められた鍰クズ 界が開け、大量に寄せ集められた鍰クズ 反対側の海岸へと向かう。途中で急に視 反対側の海岸へと向かう。途中で急に視 です。

てくれる (写真⑤)。その草木すら拒絶した荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる風景は、炎天下とは言え、た荒涼たる地形の魅力に不思議な感動を覚しかも人為的な結果として形成。その草木すら拒絶して非なる地形の魅力に不思議な感動を覚える。

近代化遺産も色々あるものだ。





「第16回地域づくり団体全国研修交流会 群馬大会」

次回の交流会は、上州名物空っ風(からっかぜ)が吹き荒れる寒い季節(2月)に、群馬県のまちづくり関係者が熱いハートで出迎えてくれるそうです。愛媛からはやや遠方ではありますが、多くの方が参加していただければ幸いです。

■と き:平成14年2月15日金~16日仕)

■と こ ろ:群馬県高崎市、桐生市、伊勢崎市、榛名町ほか

■テ ー マ:「認めあう力、響きあう心」

■詳 細:http://funabiki-t@pref.gunma.jp

(事務局:群馬県地域整備課)

■問い合わせ まちセン ☎ (089) 932-7750 (担当:山下)

※参加費用の一部支援を考えています。

受付中

まちづくりアシスト事業」の支援申請

地域において、自主的に活動するまちづくりグループ・団体が実施する学習・研究活動等 について、センターでは今年度5グループ程度の支援を予定しています。

①対象グループ

活発に学習・研究活動を行っているグループで、原則として、会の運営が会員の会費 によって賄われているところ。

②対象経費

(農政ジャーナリストの会選考

学習・研究活動のために招くまちづくり実践者等の講師の謝金。

愛媛新聞社発行

BOOK INFORMATION

第十六回農業ジャーナリスト賞受賞作。 第十六回農業ジャーナリスト賞受賞作。 身土不二をキーワードに、日本農業の、食料自給率や農産物流通、担い手問題など、危機的状況。といわれる現状を徹底取材し、危機的状況。といわれる現状を徹底取材し、意料自給率や農産物流通、現工不二一えひめ農業の再興一』が本になった。
現立い状況がヒシヒシと伝わってくる。
なが、注目を集めた『身土不二一えひめ農





「地域づくり活動者研修交流会」

県内各地で地域づくりに取り組んでいるグループ・団体の関係者が一堂に会して、日頃の悩みや意見等を出し合う研修交流会を、県の委託を受けてセンターで実施します。

今回は、亀地 宏さん(フリージャーナリスト)と岡田文淑さん(内子町町並保存センター 所長)の対談も実現する予定ですので、奮ってご参加下さい。

■と き:平成13年11月6日火 13:30~17:00

■と こ ろ:メルパルク松山(松山市道後姫塚)

■プログラム:○基調講演 亀地 宏(フリージャーナリスト)

○対 談

亀地 宏、岡田 文淑

○研究サロン終了(17:00)後、交流会を開催。

■問い合わせ・申し込み まちセン ☎(089) 932-7750 (担当:三好、山下)



地域課題研究サロン

都会では、自然や、そこでの暮らし・文化に、心の安らぎを求める人たちが増えています。一方、農山漁村では、地域づくりをしていく上で、都会の人たちとの交流や連携は不可欠のものとなってきており、都市と農村との交流、ツーリズムの必要性は一段と高まっているように思います。

そこで、地域特性を活かしたツーリズムのコンセプトや手法等について、木魂館の江藤館長を迎えて、参加者全員で探っていく場を設けることにしました。ツーリズムに関心のある方のご参加をお待ちしています。

■と き:平成13年11月14日(水) 13:30~17:00

■と こ ろ:にぎたつ会館(松山市道後姫塚)

■プログラム:○基調講演 江藤 訓重(関)学びやの里 木魂館館長)

○サロントーキング

(県内のツーリズムの方向について、参加者全員で討論) 話題提供者 森長 禮子 (ファーム・インRAUMこくりこ) 赤尾 道子 (しまなみグリーンツーリズム)

※研究サロン終了後、講師を交えて交流会を開催予定。

■問い合わせ・申し込み まちセン ☎(089)932-7750(担当:橋岡、山下)



えひめ地域づくり研究会議2002年次フォーラム

■と き:平成14年1月19日仕) 13:00~ ■と こ ろ:えひめ共済会館(松山市三番町)

■テーマ: 「今、地域づくりに求められているもの」

一広域合併を目前に控え、地域は何をし、私達はどう対応すべきか-

知 5 せ (類愛媛県市町村振興協会)

市町村振興(オータムジャンボ)宝くじが1枚300円で発売されます。

『オータムジャンボ宝くじの賞金は、1等・前後賞合わせて2億円』

1億5000万円×14本 前後賞各 2,500万円 1,000万円×141本 2等 売り切れ次第発売終了!



印刷/三創印刷株式会社 発行/平成十三年十月五日 財えひめ地域政策 研究センター

FAX089 (932) 7760 TEL089 (932) 7750

T790-0003 編集係までお寄せください。 財えひめ地域政策研究センター 松山市三番町四丁目十番地 愛媛県三番町ビル二階

ましたら、お気軽に『舞たうん づくり活動のトピックなどあり ** 内容についてのご意見やまち * ***** (橋岡

がらの暮らし、遊びができるとこ 元の子どもたちが自然の中で昔なの特集記事にもあったように、地 るんだろうなと感じました。 たちは、 ろでもあるんでしょうね。 で暮らし、 んだ川があります。こんなところ で見たとおりの緑あふれる森、 Ŧi. ・五車線の県道をゆっくりと約 持続できる農村集落とは、 「ごっくん馬路村」のポスター M。そこには、当たり前 村を愛し、 遊べる馬路村の子ども いい大人にな 今回 です 澄

ました。

太平洋岸の安田 高知県馬路村に行

町 って

から

☆E-mail:machicen@mail.netwave.or.jp

まちづくりセンターえひめ

まちづくり活動部門